# きずな

SENBI

２０２３年１月
第２３０１号

## ＝令和５年（２０２３年）を迎えて＝

代表取締役社長　中 田 義 秀

新年あけましておめでとうございます。
皆様におかれては、新たな気持ちで新年を迎えられたことと思います。

さて、コロナ禍は相変わらずの様相を呈しており、広島県では昨年末から１日５千人を超える感染者が発生する日があり、全く衰退の兆候はみえません。
一方、人々は行動制限のない中、ある程度自由に活動範囲を広げ、特に観光業界はコロナ禍前の勢いを取り戻しつつあります。
しかしながら、ある程度経済情勢が上向き加減にあるとはいえ、最低賃金の値上げに加え一連の物価上昇が拍車をかけ、当業界も生き残りをかけ懸命な企業努力が求められています。
当社も創立４０年を無事迎え、次の５０年に向けた新しいステップを踏み出したところではありますが、前途は決して平たんな道程ではありません。
このような厳しい経済状態の中でありながら、４２期も現在のところほぼ計画通りの実績を上げることができています。従業員皆様の努力の結晶であると感謝しております。
私はこれまで、会社の発展について、必要と考えていることをこの「きずな」でも項目を絞りながら述べさせていただきました。
「人材の育成・確保」、「会社のブランド力アップ」、「従業員のスキルアップ」そして「新規事業への挑戦」など、どれ一つ欠けも会社の発展を成し遂げることはできないとの思いがあるからです。
この考えの原点は、お客様から「センビにお願いしてよかった！」と感じてもらえる会社であり続けるためです。
皆様におかれては、一人一人が感性を豊かに持っていただき、会社の発展の一翼を担っていただきたいと切に願っているところです。

以上、新年を迎えて私の所見を述べさせていただきました。
皆様方にとって、新しい年が病気やケガのない、そして充実した実り多い年でありますよう心からご祈念申し上げ、令和５年新年のあいさつとします。

本年もよろしくお願いいたします。

# 新しい年に向けて

呉営業所
所長　齋藤敦則

　新年あけましておめでとうございます。
本年もみなさまにとって良い年である事を心よりお祈り申し上げます。
　昨年は国内国外とも、大変な出来事がありました。
　まさにそれを象徴すべく、昨年清水寺で発表された1年間の世相を表す漢字は『 戦 』でした。
　そういった暗いニュースも多々ありましたが、そんな中明るいニュースもありました。サッカーワールドカップです。私も毎日、夜中や朝方に起きて観戦し毎日寝不足の中、仕事をしておりました（笑）。
　過去の優勝国であるドイツやスペインにも金星をあげるなど、興奮冷めやらぬ日々が続きました。ブラボー❗
　サッカーを見ているといつも思うのですが、仲間を信頼し協力する阿吽の呼吸で1つの事をやり遂げるという事は、大変素晴らしいことだと思います。
　このことは、仕事にも同じ事が言えます。所員がお互いを信頼し、協力してこれからも呉営業所が皆様から素晴らしい会社と言ってもらえるよう尽力したいと心から思っております。
　本年も何卒、よろしくお願いいたします。

東山口営業所
　所長　本田健一

　明けまして、おめでとうございます。
　昨年は、東山口営業所管内で労災･交通事故は共に無く、従業員皆様のご協力の賜物であると、心から感謝しております。
　しかし、一方では残念ながら成人病等で３人の方が、仕事に就けなくなったり亡くなりました。
　私の思いとして、普段の健康管理のお手伝いにもう少し踏み込みが出来なかったかと悔やまれます。

　その強い思いを胸に、今年の目標は
　**「健康管理」**
としました。
　一にも二にも、「健康管理」に努めて頑張っていきましょう。

三次営業所
所長　平田　勇

新年明けましておめでとうございます。
昨年も振り返ってみれば新型コロナウイルス感染症対策と各現場の人員不足が課題となった一年だったと思います。
又、私事ではありますが昨年11月に体調を崩し1ヵ月間の入院生活を送る事となり、その間、営業所管理を本社はもとより三次営業所新家係長と堀江さんで業務遂行していただくとともに各現場の従業員皆様も三次営業所一丸となって頑張っていただいた結果、こうして新年を迎えられることができたことを感謝いたします。
皆様においても健康が第一だと改めて思いましたので、日々の体調管理には十分注意し新たなスタートをして頂きたいと思っております。
今年も課題としては人員不足がありますので、人員確保に取り組みたいと思っております。
私自身も体調を整え、社員・従業員一同と一丸となって頑張ってまいりますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

東広島営業所
所長代理　大岡章三

新年、あけましておめでとうございます。

昨年度から、東広島営業所も２人態体制となりました。去年も新型コロナウィルスがおさまらず、大変な年でしたが、仕事や業務全般にわたり、皆様のご指導、ご助力を戴き、無事に新しい年を迎える事が出来ました。
**さて、令和５年は、癸卯（みずのとう）、うさぎ年です。**
卯（うさぎ）は穏やかで温厚な性質であることから、「家内安全」また、その跳躍する姿から「飛躍」を象徴するものとされてきました。
そして、今年は、「うさぎ」にちなみ、「無災害運動を通じての安全」、「業務実績のさらなる飛躍」を合言葉に、東広島従業員一同、頑張ってまいります。
どうか、皆様の暖かく力強い、ご助力・ご支援をお願い申し上げます。

# 卯（うさぎ）年

今年は卯年です。卯は穏やかで温厚な性質であることから、「家内安全」。またその跳躍の姿から「飛躍」、「向上」を象徴するものとして親しまれてきました。

その他にも「植物の成長」という意味もあり、新しいことに挑戦するのに最適な年と言われています。

ところで、十二支ではウサギの漢字が「兎」でなく「卯」で表すは何故なのでしょうか。

今回は、十二支が動物の例えになったいきさつについて紹介します。

年始の話題に活用してみてください。

## 十二支はなぜ動物なのか？

十二支と動物の結びつきは、全く関係がないそうです。すでに出来上がっていた十二支に後から動物を結び付けたものだそうです。十二支と関係なくなぜ動物が、それもなぜこの１２の動物になったのか、諸説ありますが不明です。　恐らくは、十二支本来の暦として普及を深めるために分かりやすい動物を当てはめ、一般の人に教育したのではないかといわれています。

## 十二支の動物の順番やいわれ

中国ではそれぞれの動物に意味が込められていますが、日本では昔話として、神様が「１月１日の朝、１番から１２番までに来た動物を１年交代で動物の大将にする。」という手紙を書き、その手紙を受け取った動物たちが一斉に出発し、到着した順番が十二支の順番になったと言われています。１番はネズミで十二支の１番の「子」がネズミ、４番だったウサギは４番目の「卯」がウサギとされたと言われています。ちなみに猫は１３番目で十二支に選ばれなかったそうです。

## 十二支の読み

十二支の語源（中国）である「子、丑、寅、卯、辰、巳、午、未、申、酉、戌、亥」の読みは、「シ、チュウ、イン、ボウ、シン、シ、ゴ、ビ、シン、ユウ、シュツ、ガイ」と読みます。

日本では前述した動物の順番に当てはめ、「ね、うし、とら、う、たつ、み、うま、ひつじ、さる、とり、いぬ、いのしし」と読んでいます。

## 十二支に選ばれた動物に込められた意味

**≪子（ね）≫**
子が表しているのはネズミ。十二支の中で１番目の動物です。ネズミは繁殖力が強いことから、子宝の象徴とされている動物。子孫繁栄の意味を込めてネズミが当てはめられました。

**≪丑（うし）≫**
昔はウシといえば生活のパートナー。重い荷物を運んだり田畑を耕したりと、生活に欠かせない動物でした。ウシは力強さの象徴。粘り強さや誠実さを表すことから、丑という字にウシを当てはめました。

**≪寅（とら）≫**
トラは勇猛果敢な動物。その勇ましさから、トラが当てはめられました。また、決断力の高さや才覚のある様子も表されています。

**≪卯（うさぎ）≫**
おとなしく穏やかなイメージがあるウサギ。安全の象徴という意味が込められています。また、ウサギの特徴といえば跳躍力。飛躍や向上という意味も込められています。

**≪辰（たつ）≫**
辰はドラゴン、つまり龍のこと。十二支の中では唯一空想上の生き物ですが、東洋において龍は生活に密接しているモチーフでした。中国では、古代から龍といえば権力の象徴。日本でもその影響を受け、辰は権力の意味合いを持っています。

**≪巳（み）≫**
巳が表すのはヘビ、脱皮を繰り返して成長するため、永遠や生命、再生の象徴とされています。

**≪午（うま）≫**
ウマもウシと同様に生活に欠かせない存在。粘り強さを表すウシとは異なり、ウマは健康や豊作を象徴する動物として十二支の一つになっています。

**≪未（ひつじ）≫**
ヒツジは群れで生活を好む動物。その特徴から、家内安全の象徴とされています。

**≪申（さる）≫**
知能が高く、神の使いであると信じられてきたサル。賢者を象徴する動物として、十二支に選ばれています。

**≪酉（とり）≫**
酉という字はトリ、特にニワトリを表すもの。「酉の市」という言葉があるように、商売繁盛の象徴として扱われています。

**≪戌（いぬ）≫**
イヌもウシやウマと並び、古くから生活を共にしてきた動物。特に主人に忠実であることから、忠義の象徴という意味があります。

**≪亥（いのしし）≫**
昔から、イノシシの肉は万病に効くと考えられており、イノシシは無病息災の象徴。また、猪突猛進という言葉から、一途で情熱的なイメージも含まれています。

## ３６協定を締結

昨年１１月、本社及び各営業所で「時間外労働及び休日労働に関する協定」（一般的には「３６協定」と称されています。）が、締結当事者間において協定されました。（協定内容は次表のとおり。）

この協定結果を労働基準監督署へ届出し受理されましたので、協定の有効期間中（１年間）は、従業員の皆さんには時間外労働と休日労働をお願いすることが法的に可能となっています。

| 協定の有効期間 | 令和４年１２月１日～令和５年１１月３０日（１年間） | | | |
|---|---|---|---|---|
| 延長することができる時間外労働の時間数 | | 労働させることができる休日の日数 | 特別の事情がある場合の時間外労働（左記の時間外労働の時間数は含まれない） | |
| １か月 | １　年 | １か月 | １か月 | １　年 |
| ４５時間 | ３６０時間 | ２日 | ７０時間 | ７２０時間 |

## 編集後記

**―　当たり前　―**

「当たり前」を辞書で調べてみると、「言うまでもない事柄や様子」のことで、考え方や物事のとらえ方などが、世間一般的に広く共有されている状態を表す。とありました。つまり、誰がどう考えてもそのようなこと、当然なことが「当たり前」だそうです。

いつの間にか、出来て当たり前のことが出来なくて当たり前になっている自分に気付かされます。

若い時代には何事もなく当たり前にこなしてた行動が、気持ちと体がアンバランスになり思うように行動ができなかったり、一度聞けば覚えられた事が、何度聞いてもすぐ忘れてしまう。

特に個人名など固有名詞は、情けないほど思い出すことが出来なくなっています。

今回この「当たり前」をテーマにしたのは、昨年の運転免許の更新の際、高齢者講習受講義務の仲間入りとなったことがあります。

まだまだ大丈夫！と車の運転に自信を持っていましたが、日常生活の中でこの当たり前が出来なくなっている自分に反省をしたのです。

高齢者による悲惨な交通事故が報道されることも多くなっています。

新年を迎え、出来なくて当たり前になりつつある行動を自覚し、車を運転する際は時間を要しても安全運転に心掛けるよう心を新たにしたところです。

≪文責　総務経理部　Ｎ．Ｔ≫